

沖縄県新型コロナウイルス感染症発生動向報告

沖縄県疫学・統計解析委員会

【現状】

新規陽性者数・実効再生産数

沖縄県における先週（7月25日-31日）の新規陽性者数は33,986人（先々週30,059人）でした。沖縄本島（周辺離島を含む）における先週の実効再生産数(R)^{*1}は1.07 [最小値0.64-最大値1.32]、このうち那覇市は1.08 [0.76-1.25]でした。また、宮古は1.01 [0.49-1.46]、八重山は0.85 [0.60-1.12]でした（図1）。

^{*1}：最終日を除いた直近7日間における日別推定値（平均値）の平均値。[]内は、直近7日間における日別推定値（平均値）の範囲（最小値から最大値）を表す。

保健所管区別

保健所管轄区域別（7日間合計）では、北部2,108人（先々週1,779人）、中部12,232人（先々週10,906人）、那覇市6,619人（先々週5,658人）、南部9,964人（先々週8,400人）、宮古1,345人（先々週1,365人）、八重山1,361人（先々週1,618人）でした。県内で先行して爆発的な流行を認めていた八重山と宮古では減少に転じていますが、それ以外の地域では感染拡大が続いています（図2）。

県外からの渡航者

感染を確認した県外からの渡航者（7日間合計）は、336人（先々週245人）でした。全国での感染拡大を受けて、渡航者の感染例が急速に増えてきています（図3）。最多の渡航元は東京都の80人で、神奈川県36人、大阪府30人と続き、33都道府県に渡ります。また、このうち9人が入院

しています。

診断された地域については、北部22人（地域の報告数に占める割合1.0%）、中部49人（地域の報告数に占める割合0.4%）、那覇市71人（地域の報告数に占める割合1.1%）、南部42人（地域の報告数に占める割合0.4%）、宮古50人（地域の報告数に占める割合3.7%）、八重山44人（地域の報告数に占める割合3.2%）、不明58人でした。

年齢階級別推移

年齢階級別では、40代が5,416人（16%）と最多であり、10歳未満5,214人（15%）、10代4,651人（14%）と続きます（図4）。前週比をみると60代が1.30と最大であり、次いで80代1.23となっています。その一方で、10代、20代など若者層の伸びが鈍化しています。これは軽症の若者層に対して、受診を控えるように県が呼びかけていることが影響している可能性があります（図5）。

入院患者数推移

入院患者数は先週末時点で981人（7月24日時点788人）と増加しており、このうち酸素投与など中等症患者は419人（7月24日時点362人）、気管挿管など重症患者は22人（7月24日時点8人）と急速に増加しています（図6）。重症患者が20人を超えるのは、昨年9月以来のことです。

また、7月31日時点で、沖縄県内において救急受入を担っている21の重点医療機関において、医師108人と看護師388人が新型コロナウイルスに感染して休職しています。濃厚接触者などその他の理由による休職者も含めると、医師129人と

看護師 629 人が働くことができなくなっています(図7)。休職者数が高止まりしていることから、沖縄県の救急医療と入院医療の機能が大幅に低下しています。

一方、社会福祉施設で療養されている陽性者は、先週末時点で 174 施設 1,805 人(7月24日時点 1,177 人)と急速な増加が続いており、すべての療養者への巡回診療が困難となっているほか、介護機能そのものが維持困難となっています(図8)。

7月における入院受療率

7月1日から31日までに、沖縄県内で診断された新規陽性者 106,977 人のうち、年齢または性別不詳の 549 人を除く、106,428 について、性年齢階級別に入院の有無を確認しました。男性、女性ともに年齢とともに入院受療率と致死率は上昇しますが、とくに男性において入院するリスクが高くなっており、90 歳以上では、男性 27.0%、女性 16.2%が入院しています(図9)。

【今後の見通しと対策】

沖縄県における流行は、7月以降、急速に拡大しています。先週より、その速度はやや鈍化したようではありますが、いまだ八重山を除いて増加が続いており、全県的に医療と介護の提供体制に深刻な影響が生じています。

とりわけ高齢者において感染が広がっており、入院を要する患者が増えています。しかし、感染などで出勤できない医療従事者が多く、医療機関の受け入れ能力は限界に達しています。このため、入院待機ステーションで入院を待っている患者は夜間には 20 人を上回っており、高齢者施設などで酸素投与が行われている療養者は 80 人を超えています(図10)。現在、速やかに救急もしくは入院医療を受けるべき方々が、適切な医療が受けられなくなっています。

感染者の増加が続く背景には、感染力を増したとされるオミクロン株の BA.5 系統が流行していること、ワクチン接種率の低さと最終接種から時間が経過していること、そして、夏休みに入ってから人々の移動と交流が活発になっていることがあると考えられます。

個人レベルで感染予防を心がけていただくことが基本ですが、加えて多くの人が集まるイベントを減らし、飲食などでマスクを外す場面を回避することが必要です。できるだけ屋外での開催が望ましいですが、屋内で人が集まる場合には、参加

者がマスクを必ず着用したうえで、機械換気による常時換気を基本とし、人混みによっては窓開け換気を追加するようにしてください。換気が適切に行われているかについては、二酸化炭素濃度が 1,000ppm 以下を保たれているかを確認します。

なお、イベント参加者に対するアルコールの提供は、声を大きくしてエアロゾルの排出量を増やし、感染対策が守られにくくなると指摘されています。主催者によるアルコール販売だけでなく、アルコールを持参してのイベント参加がないように呼びかけください。一方、熱中症対策としての水分摂取は促していただければと思います。沖縄県では、医療非常事態宣言が出されていることを鑑み、参加者が体調不良にならないよう、無理のないスケジュールを組むことも必要です。搬送先が見つからない可能性も踏まえ、スポーツイベントでは救護所の体制を強化してください。

今週の新規陽性者数は 30,000-40,000 人となると見込みます。ただし、検査・受診体制が限界となっているため、実際の感染者数に比して報告数はさらに少なくなる可能性があります。入院患者数については、今週末までに 1,000-1,100 人に至ると見込まれます(図11)。コロナ感染拡大警報が出されて3週間が経過し、医療非常事態宣言が出されて10日間が経過しています。今週中に減少へと転ずることがなければ、さらに強い抑止策につ

いての検討が求められます。

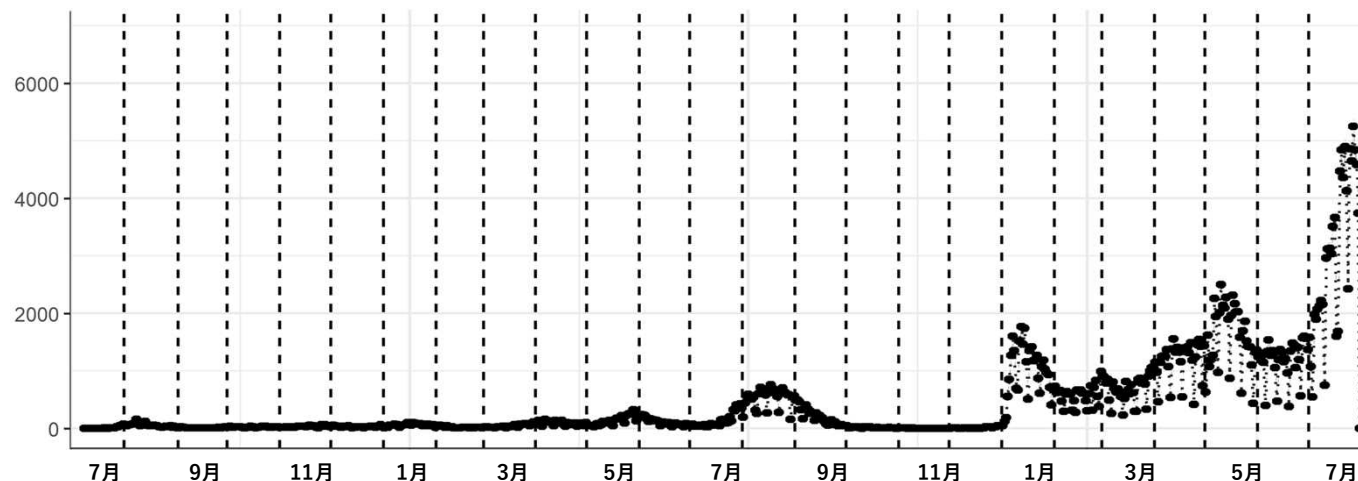
なお、沖縄県内では、インフルエンザの報告が徐々に増加してきています。7月11日の週には5人の報告が定点医療機関よりありましたが、18日の週には11人（北部1人、中部1人、那覇市0人、南部2人、宮古0人、八重山7人）に増えています。いまだ低いレベルですが、今後、新型コロナとの同時流行も想定する必要があります。

図1 陽性者数の推移と実効再生産数（北部、中部、南部）

陽性者数（確定日）

日あたり観察値

北部、中部、南部医療圏
(宮古・八重山を除く)



実効再生産数

直近7日間平均値

北部、中部、南部医療圏
(宮古・八重山を除く)

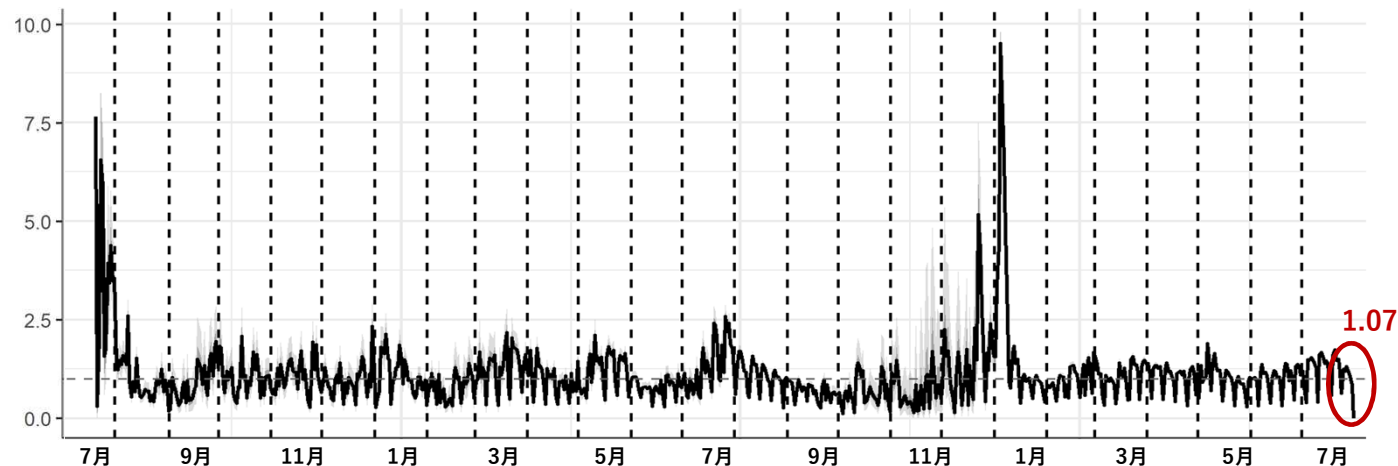


図2 保健所管区別にみる新規陽性者数の推移（沖縄県）

人口10万人あたり7日間合計

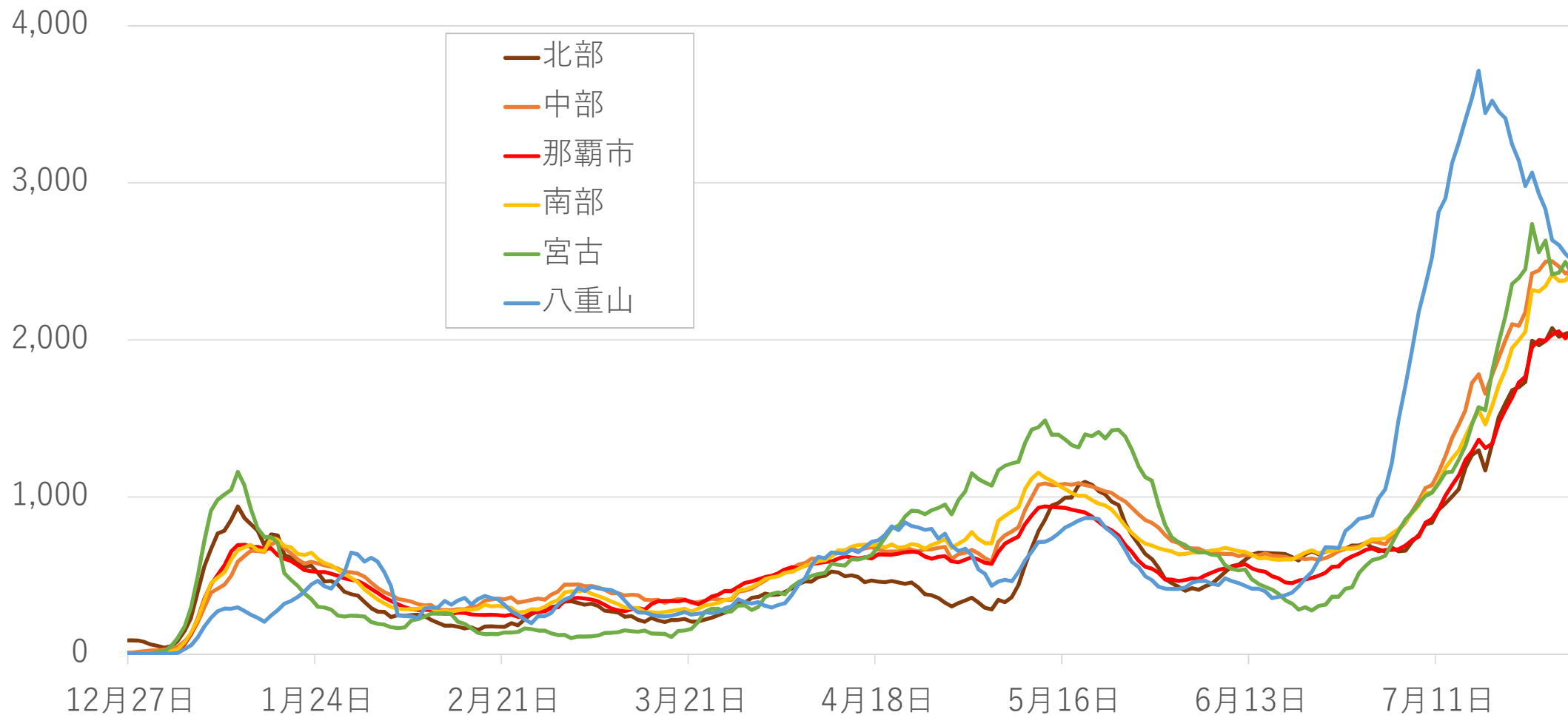


図3 県外からの渡航者における新規陽性者数の推移（沖縄県）



図4 性年齢階級別にみる陽性者数（7月25日～31日）

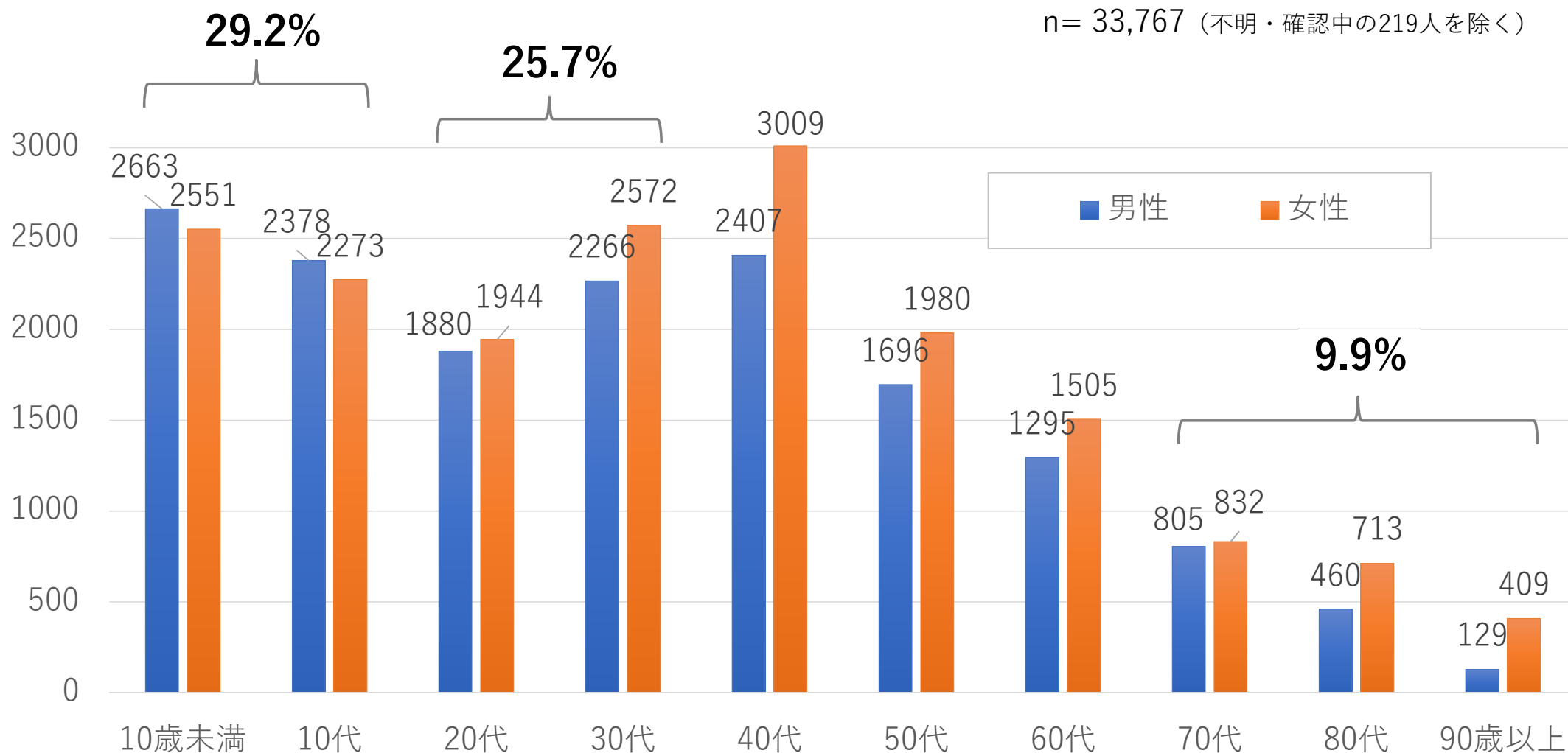


図5 年齢階級別にみる新規陽性者数の推移（人口10万人あたり7日間合計）

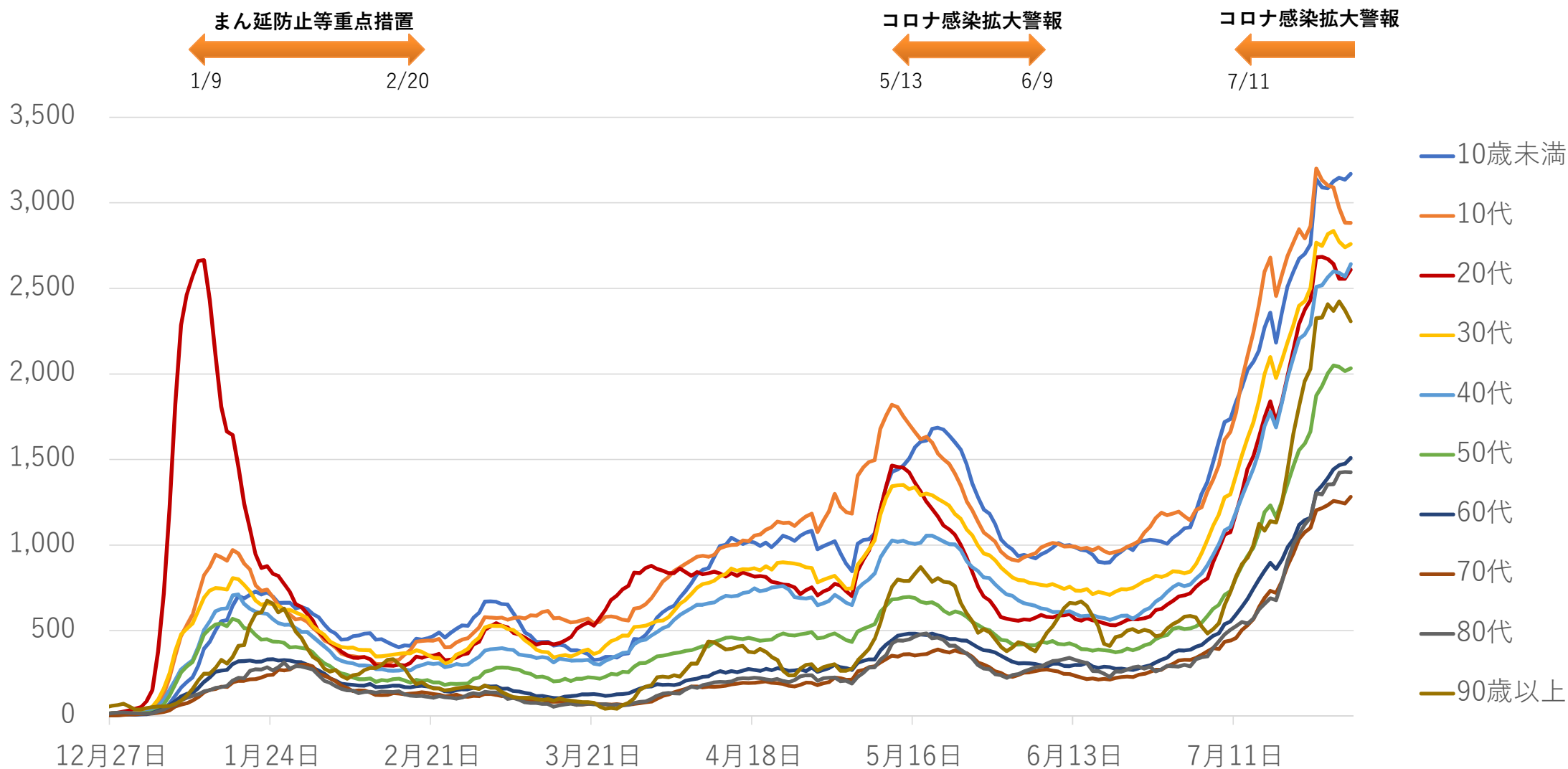


図 6 新規陽性者数と重症度別入院患者数の推移（沖縄県）

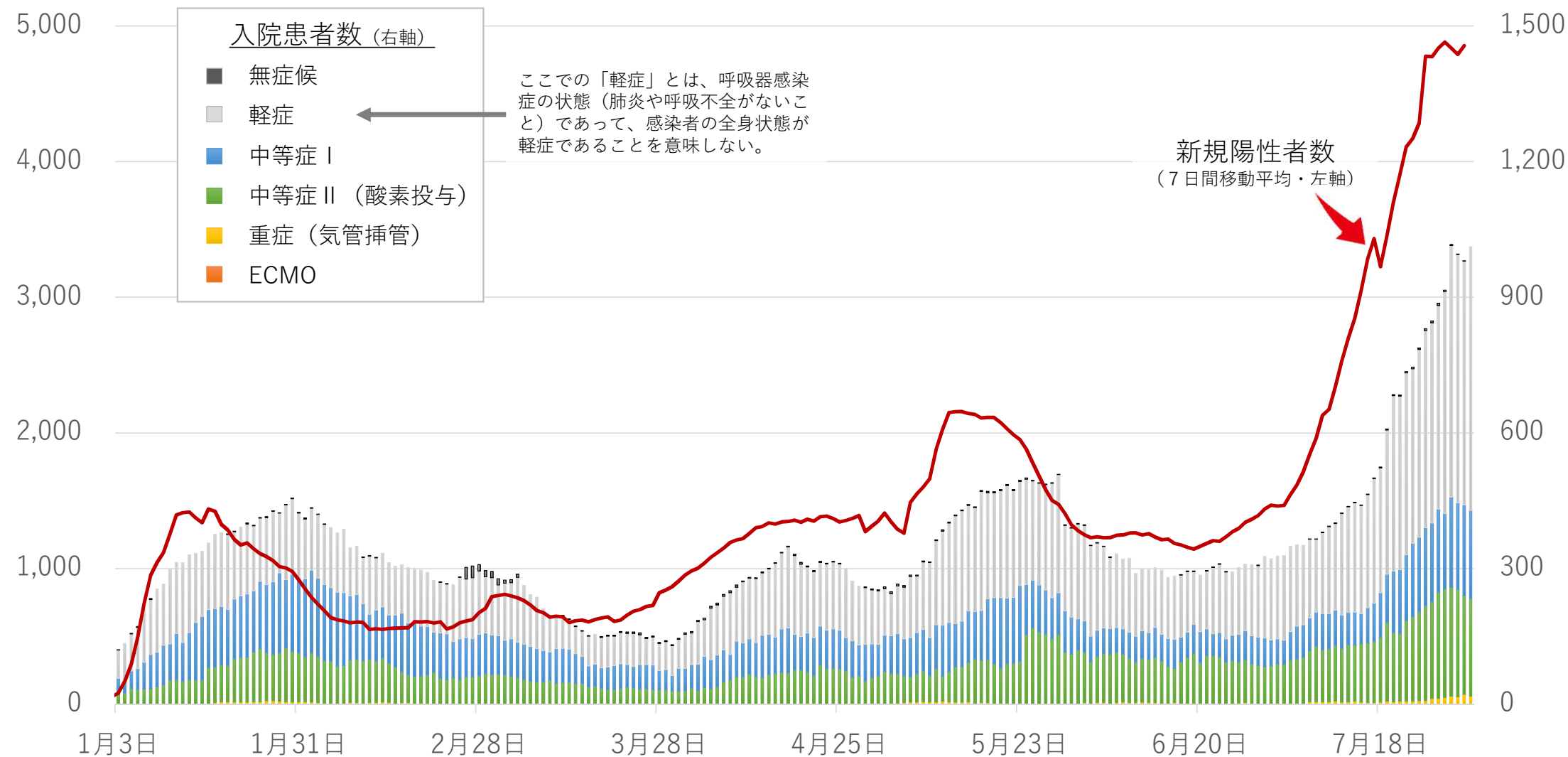
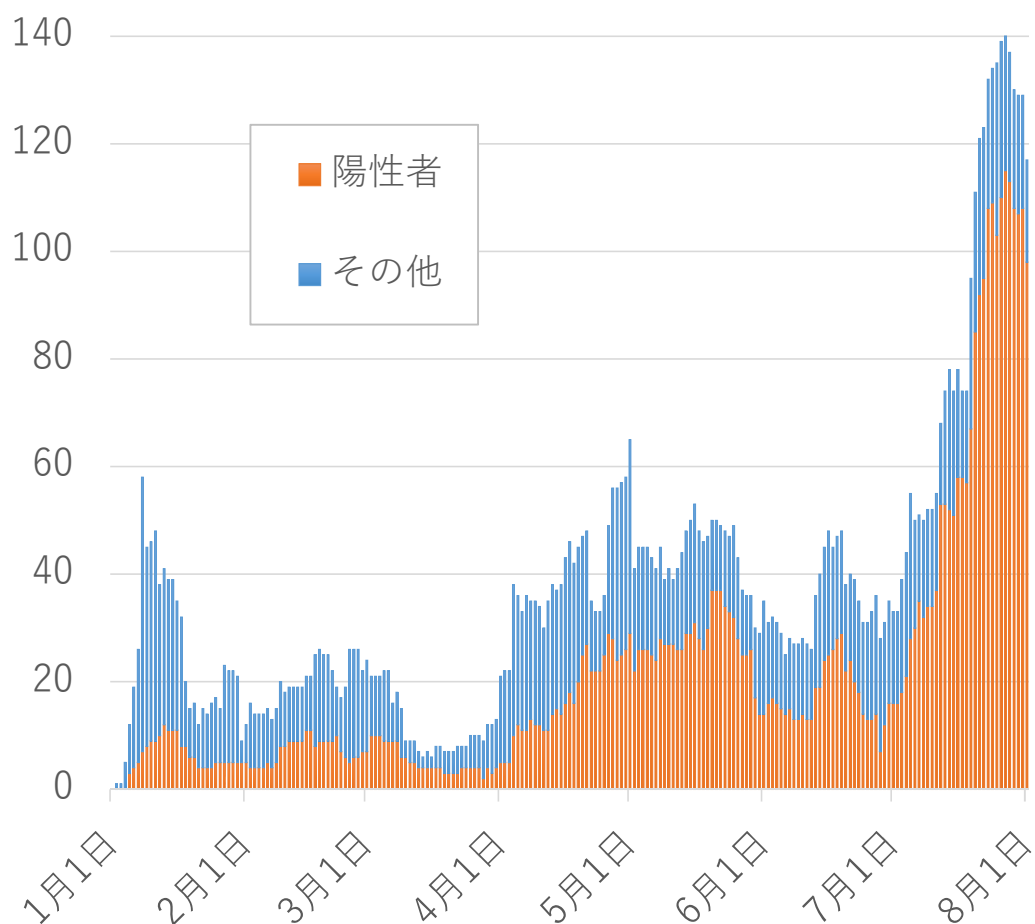


図7 重点医療機関（21病院）における医師、看護師の休職数

医師



看護師

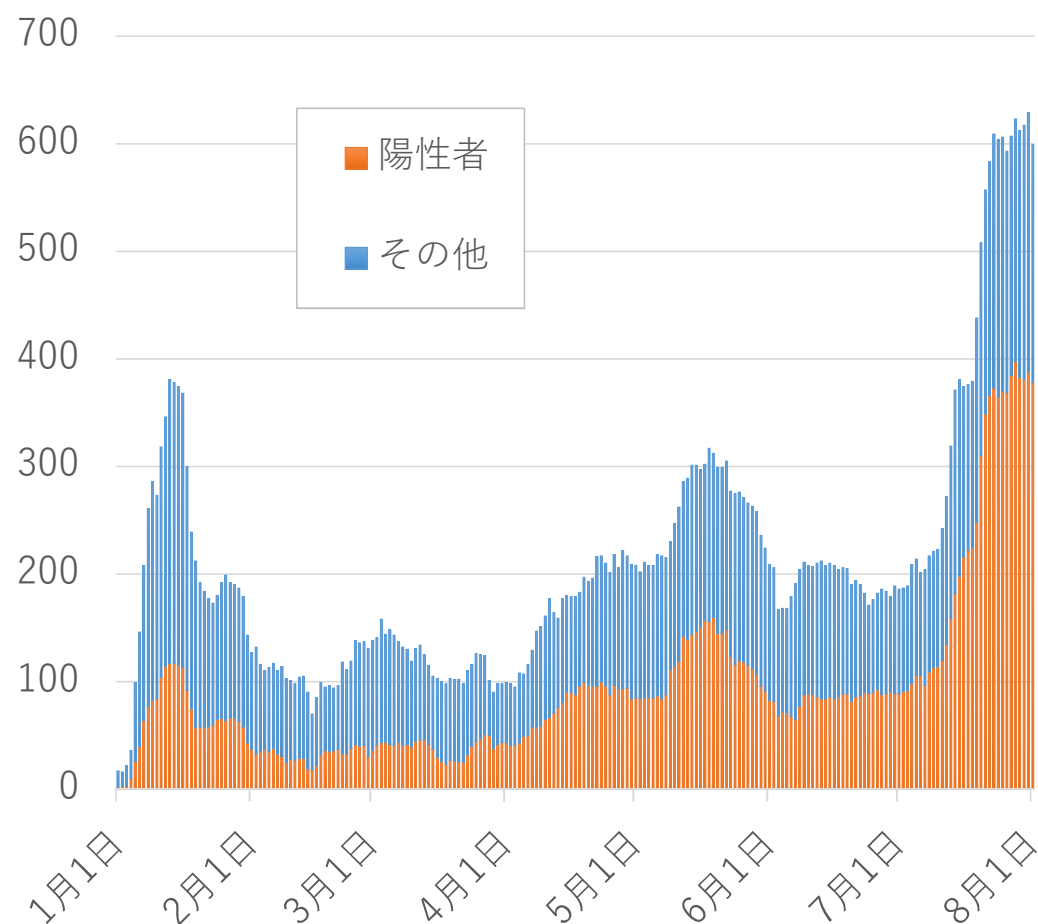


図 8 社会福祉施設における施設内療養者数

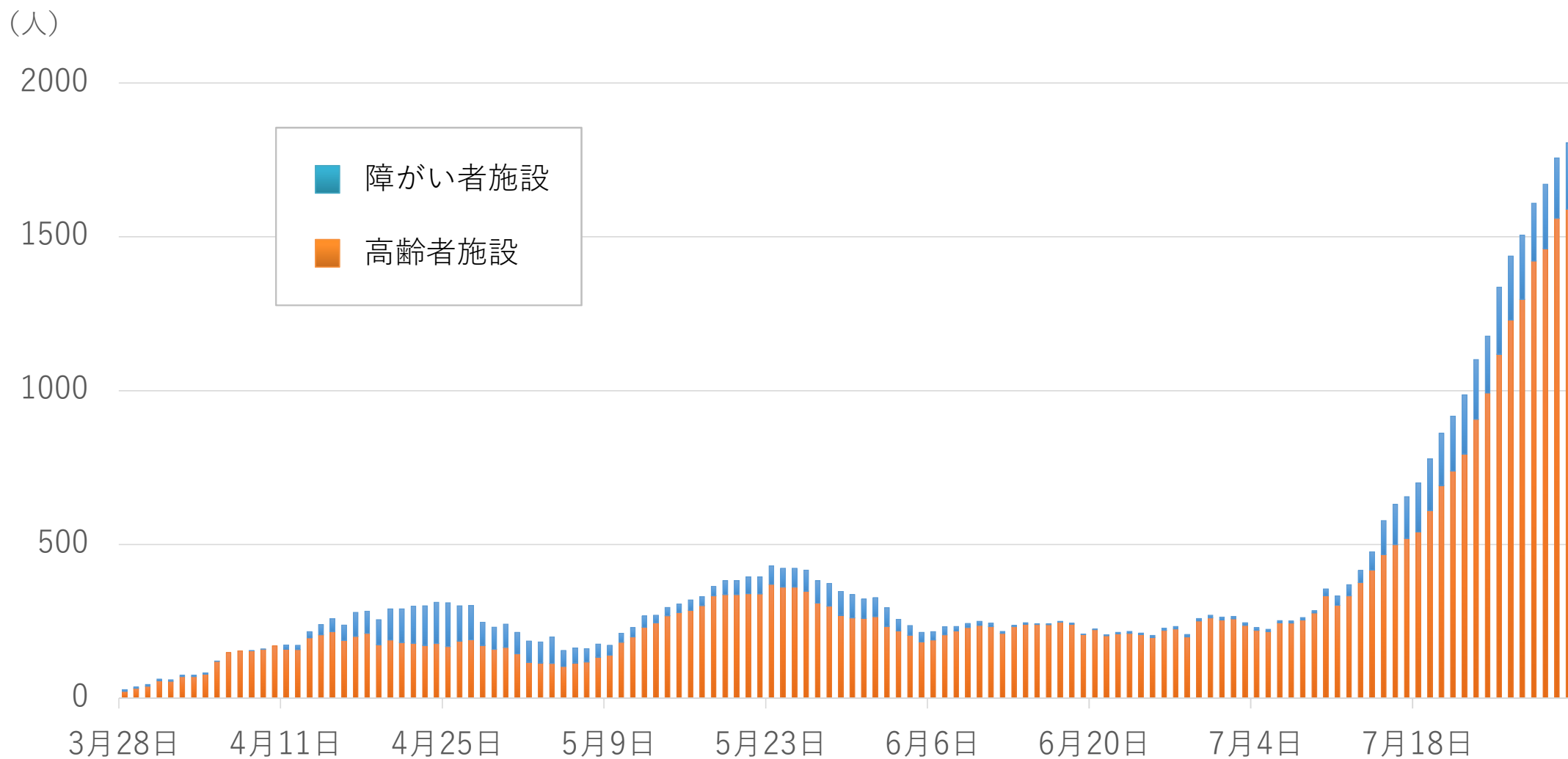
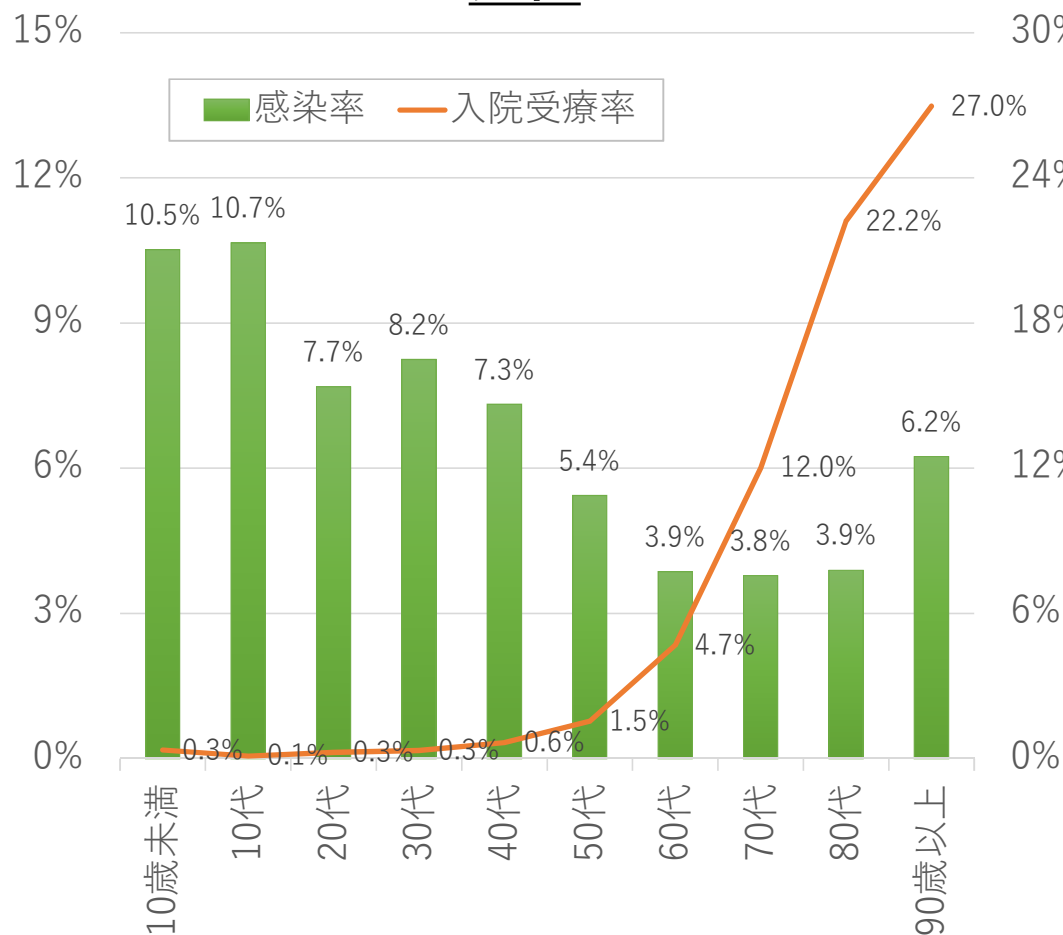


図9 性年齢階級別にみる感染率と入院受療率

2022年7月1日～31日

男性



女性

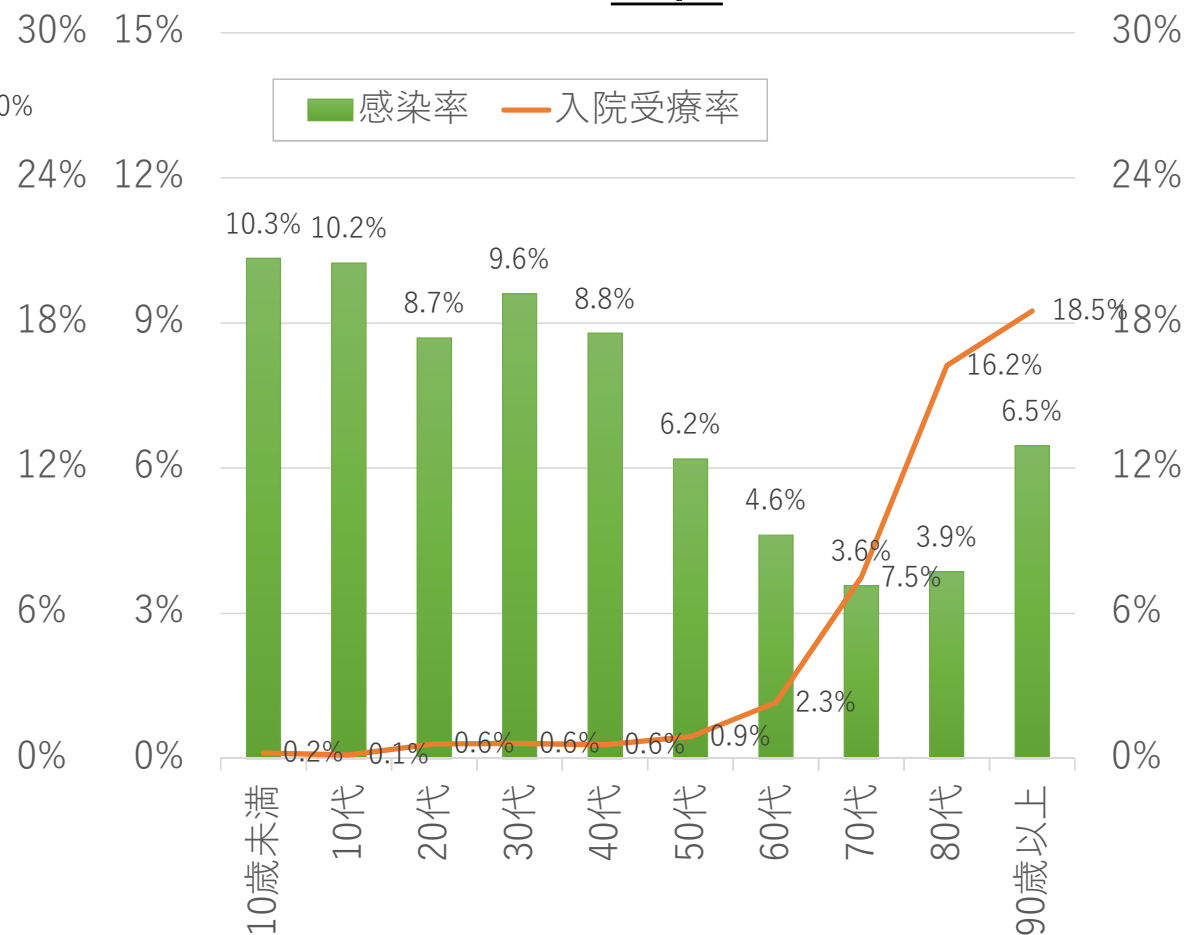


図10 病院外において酸素投与が行われている療養者数

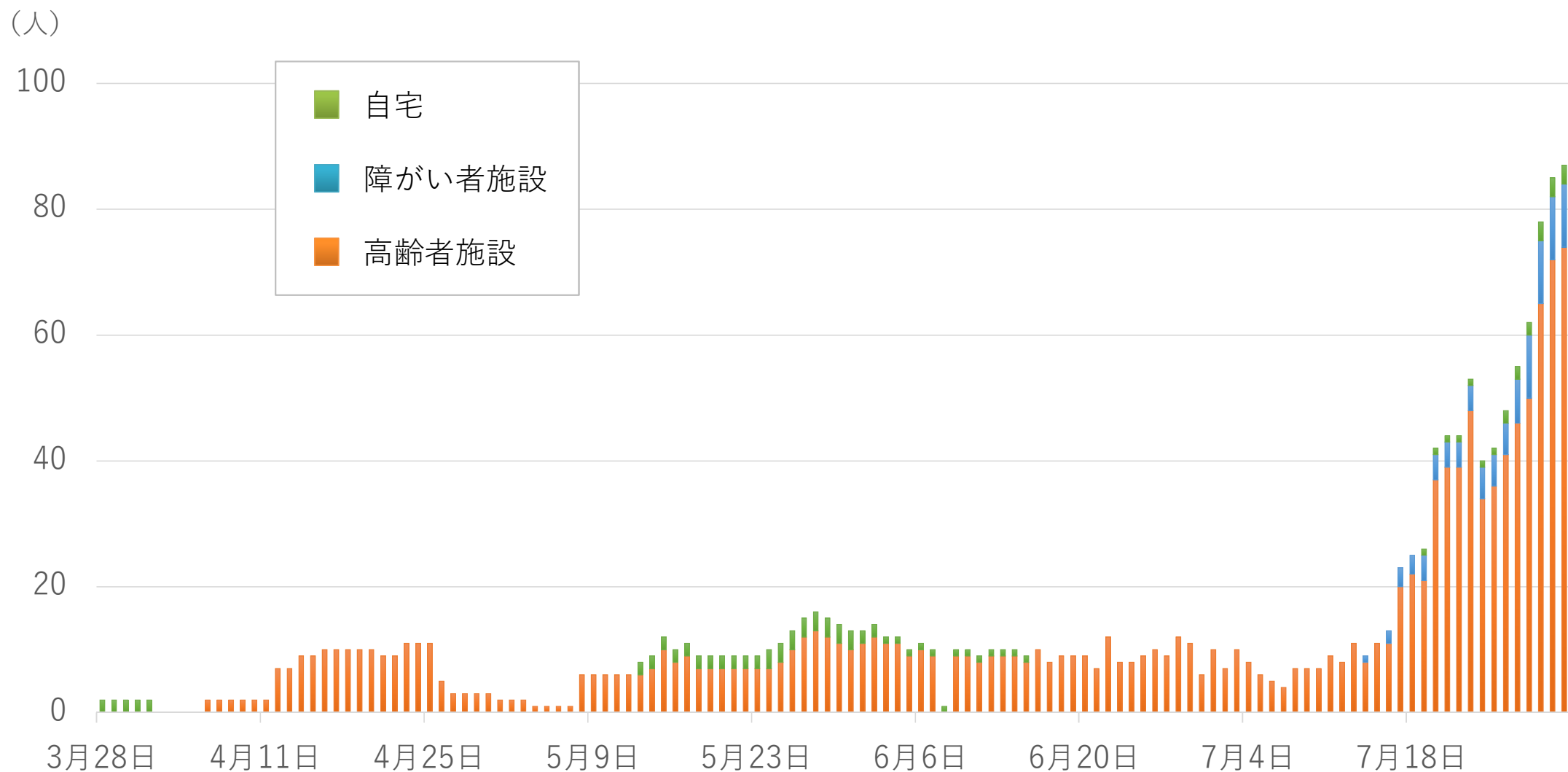


図11 今後1週間（8月1日-7日）の発生見込み数

分析データ： 新規陽性者数、年齢群別・医療県別入院率； 沖縄県
 年齢群別重症化率； 厚生労働省
 平均期間（入院・重症）； HER-SYS

	新規陽性者数（確定日）			入院患者数（8月7日時点）		
実効再生産数	0.5	1.0	1.5	0.5	1.0	1.5
沖縄本島	15,038	30,282	60,980	784	959	1,246
宮古圏域	684	1,378	2,775	29	38	52
八重山圏域	686	1,382	2,783	33	43	58
合計	16,408	33,042	66,538	847	1,039	1,356